別紙様式2

令和6年度　　学 校 評 価 表　　（ 中間評価 ・ 最終評価 ）　　東広島市立下黒瀬小学校

学校教育目標	かしこく　やさしく　たくましく　～　社会に出て通じる力の育成　～	経営理念	【ミッション】学校の使命 これからの社会で活躍することができる「力のある子ども」の育成 【ビジョン】 〇めざす学校像：共に高まり　成長する学校 〇めざす児童像：進んで学び合う・自分も人も大切にする・何事も最後までねばり強くやり抜く子ども 〇めざす教師像：めざす児童像実現に向け，創意工夫して取り組む教職員

評価計画							自己評価					学校運営協議会による評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 9月	達成値 1月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
かしこく（知）	1	学ぶ楽しさを味わわせ，確かな学力をつける。	・基礎・基本の学力の定着・向上を図る。	・授業のねらいを明確にした授業づくり ・下小タイム（朝学習）の充実 ・読書活動の推	・標準学力調査の平均正答率（標準スコア） ・国語科，算数科の単元末テストの正答率	標準スコア50以上，令和5年度85%以上	単元末テスト 国語科 83.7% 算数科 80.8%	標準学力調査 標準スコア 49.0 国語科 48.7 算数科 50.7	99%	3	標準学力調査の標準スコアでは，平均スコアは49.0であり，全国平均をやや下回った。また，昨年度の平均スコア49.7からも下回った。算数科では，標準スコアが50.7で全国平均を上回っていたが，国語科では，標準スコアが48.7と下回った。 昨年度より，算数科を中心に授業研究を行い，問題提示，対話のさせ方，振り返りなどを工夫し，児童の学力を定着させる授業の在り方について研修を深めてきた。算数科においては，その成果が表れてきているといえるが，そこで学んだ授業の在り方を他教科に広げるという点では課題が残る。	A	学力を数値で図るのは難しい。数値が上がればそれでいいというものでもない。 学び方を知っていると学力が伸びる。粘り強さ、素直さも大切。 学力の高い学校の授業を参考にするとよい。	各学年で標準学力調査の分析を行い，課題となる分野を明確にする。そして，明らかになった課題に対して重点的に取り組み，その結果について全校で研修を行う。 朝の帯タイム等で多くの教職員（担任，管理職，専科，支援員）で指導する体制にして，学力に課題のある児童の支援を行い，基礎的な学力の定着に努める。 児童の学力を定着させる授業の在り方を全教職員で研修し，効果的な指導法を交流し，思考場面や表現活動をいかした授業づくりに努める。
			・児童が主体的に考え対話する授業づくりを行う。	・算数科におけるつける力に応じて手立てを工夫した授業研究の推進 ・研究推進による授業改善	・児童アンケート ①「課題を意識して，授業に参加しているか」 ②「進んで自分の考えを伝えようとしているか」	85%以上	アンケート① 92% アンケート② 84．4%	アンケート① 93．8% アンケート② 92．4%	109%	4	授業に関する児童アンケートの結果を見ると，アンケート①②の肯定的評価の平均は93．1%であり，目標とする指標を上回った。特に，「進んで自分の考えを伝えようとしているか」については，6月から8ポイント増えている。これは，日々の授業で「対話のさせ方の工夫」を意識して取り組み，自分の考えを伝えられる場を設定していることが成果となって表れていると考える。わかったこと，解答だけを伝える対話ではなく，「わからないこと」「困ったこと」を伝えることも自分の考えを伝える一つであると捉え，児童の疑問や困り感を大切にした授業を心掛けていることが，主体的に考え対話する授業となっていると言える。	A	主体的、能動的に学習する児童が増えている。 アメリカのスポーツ選手に対して、コーチは自分がどうなりたいのか考えさせている。目標をもたせることが大切。	来年度も継続して，研究推進による授業改善を行う。付ける力を明確にして，「わかる」楽しさ「できる」喜びを感じて，主体的に学び続ける児童の育成を目指す。今年度成果として挙げられている「問題提示の工夫」と「対話のさせ方の工夫」については，継続して取組を続けていく。問題提示の工夫では，それと合わせて教師の投げかけも精選していかなければならない。また，児童の学びと学びをつなげていくためにどのように学習の振り返りをさせていくかということを教職員全員で考えていく。
やさしく（徳）	2	自他を尊重し，自己指導能力と協働意識を育てる。	・目標を設定し，達成に向けて努力する態度を育てる。	・目標設定と振り返り，評価の工夫 ・児童主体の活動の充実 ・黒瀬スタンダードの推進	・児童アンケート 「目標達成について」 「黒瀬スタンダードについて」	85%以上	目標達成 65.2% 黒瀬スタンダード 87.3%	目標達成 56.8% 黒瀬スタンダード 87.9%	72%	2	児童アンケート「目標達成について」では「後期の目標を達成できた」と答えた児童の割合は56.8%と前回の65.2%を下回った。これは，アンケートの時期が早かったため児童が目標を達成するための十分な時間が取れなかったからだと考えられる。しかし，「努力している」と答えた児童を含めると，98.8%となり，前回よりも2.2%増えている。目標を設定し，努力しようとする態度がさらに育まれていると考えられる。 黒瀬スタンダードについては，毎月の生活目標に組み入れ，毎月の振り返りを行っている。肯定的評価をした児童は87.9%であったが，廊下歩行と温かい言葉遣いに課題がある。また，年間目標であるあいさつは，87.1%と児童の肯定的評価が高い。冬休み明けに声が小さくなった児童もいたが，生活委員会のあいさつ運動などの取組により，あいさつができている。	A	あいさつについて、児童の評価だけでなく、大人の評価も入れて、対応を考えればよい。 黒瀬スタンダードが各教室の目につくところに掲示してあった。	来年度も継続して，様々な場面で目標を設定し，学校全体や学年，各学級で達成できる喜びを感じさせる取組を行っていく。 来年度，黒瀬スタンダードについては，児童自身に具体的な行動目標を設定させることで，規範意識を高められるように取り組む。また，振り返りや評価を児童に見える化することで，自分から学校をよりよくしようとする意識を高める。あいさつに関しても，本校で定めるあいさつのレベルを意識して指導し，中学校や生活委員会の「あいさつ名人」の取組とともに，さらに良いあいさつができるようにしていく。
			・お互いの良さを認め合える集団を育てる。	・温かい学級づくり ・異学年交流の充実	・児童アンケート 「学級での活動について」 「異学年交流について」	85%以上	96.6% 86.1%	99.6% 97.3%	115%	4	児童アンケートの「自分や友達の良いところを言えますか。」という問いに対して肯定的評価を行った児童の割合は99.6%だった。前回より3%増えていることから，自分を含め，お互いの良さを認め合える集団づくりが継続してできていると考えられる。また，異学年交流においても，97.3%の児童が肯定的評価をしており，低学年は高学年から学び，高学年は低学年に配慮して行動することが身に付いていると考えられる。	A	全国学力・学習状況調査で上位の秋田県の高校生は、電車の優先席に座っていなかった。道徳教育にも大切。	来年度も学級での良いところ見つけや様々な取組を通して児童がお互いを認め合う集団づくりを行っていく。また，企画委員会や生活安全委員会を中心に，学校全体での取組や異学年交流を来年度も計画・実行し，児童が成長できる環境を作っていきたい。
たくましく（体）	3	たくましい気力・体力を養う。	・運動に対する意欲の向上を図る。	・運動量，意欲向上を意識し　た授業づくり ・外遊びの推奨 ・委員会活動との連携	・児童アンケート 「学校生活の中で，自分から進んで運動をしている」	85%以上	78%	80%	94%	2	児童のアンケートの「学校生活の中で自分から進んで運動していますか。」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合は80%だった。低学年は86．7%，中・高学年は72．5%であったことから，学年が低いほど運動意欲が高いと考えられる。意欲が低く，日頃外で運動をしていない中・高学年の児童も，週に一度の教室空っぽデーやなわとびタイムを設けることで，進んで運動をすることができていた。また，持久走や縄跳びなどの取組が始まる前に，体育委員会と連携してポイントを伝え，授業でいかせるようにしたが，意欲の向上という点では，課題が残る。	A	学年が上がると外遊びをする児童が少なくなっている。 休憩時間が短く、児童は「遊んだ感」「運動した感」がないのではないか。	意欲の低い児童が進んで運動をできるように，引き続き教室空っぽデーや運動朝会などで体を動かす機会を設けたり，運動のポイントを伝えたりする。 目標を明確にしたり，主体的に授業に取り組めるようなワークシートを活用したりして，達成感の味わえる授業づくりを行う。また，作成したワークシートや指導法を教員間で共有し，児童の意欲向上につながる授業や取組を考えていく。
			・生活習慣を見直し，健康の保持増進への意識を高める。	・生活習慣の振り返りの場の　設定（スマイルカード） ・食育の推進 ・委員会活動や保護者との連携	・児童アンケート 「生活習慣をよりよくしようと　している」	85%以上	※早く寝ようとしている 88.9% ※3食欠かさず食べた 79% ※メディア時間を減らそうとしている 85%	※早く寝ようとしている 93.4% ※3食欠かさず食べた 92.3% ※メディア時間を減らそうとしている 85%	90%	4	第2回目のスマイル週間の直前に，健康給食委員会が生活習慣を見直してよい睡眠をとるための方法について児童に啓発をした。その効果もあり，アンケートでは睡眠と食事について肯定的な回答が増えた。特に，就寝時間が改善されている児童が多くみられた。また，前回のコメントに次回に向けての改善点などを一人一人にコメントしたことで，今回の振り返りでは「今回は前回よりも頑張れたと思います。」というコメントも多く，自ら生活習慣をよりよくしようとしている姿勢をみることができた。レーダーチャートは，視覚的に前回との比較がしやすいため，児童自ら変化を感じ取り，意識付けには効果的だった。	A	メディアの使用時間が長いことについて、保護者が忙しく、児童に十分関われていない。 懇談会等で保護者に啓発する必要がある。	「どうして生活習慣を整えないといけないのか」「生活習慣が悪くなるとどのような弊害があるのか」などの知識を付けることは，行動の変容に有意義なため，今後も委員会活動と連携して続けていく必要がある。 保護者には，継続してほけんだよりでの啓発を実施していく。 一定数の児童は依然として改善できていないため，個人懇談などを活用して，保護者と共に家での様子や生活習慣で気になることなどを一緒に考えていく機会を作る必要がある。
信頼される学校	4	教職員が元気で，信頼される学校を創る。	・安心安全な環境づくりや保護者・地域との連携に努める。	・整理整頓され，創意工夫のある掲示や教室環境整備 ・学校，学級の様子を便りやHPで発信 ・状況に応じた学校からの情報提供	・保護者アンケート 「環境整備について」 「情報発信について」	90%以上	環境整備 92．9% 情報発信 94．8%	環境整備 92．8% 情報発信 94．0%	環境整備 103% 情報発信 104%	4	保護者アンケートの項目「校舎内外の環境が行き届いている」について肯定的評価は，92．8%で目標値を達成した。「学校は，学校や子どもたちの様子を学校だより，学年通信，ホームページ等で分かりやすく伝えている」の項目について肯定的評価は，94．0%で目標値を達成した。 前回のアンケートより数値がやや下がっているが，スクールサポートスタッフ，コミュニティ・スクール推進員を中心に環境整備を進めているため高水準を維持していると考えられる。情報発信については，使用の発行やHPの更新を定期的に行ったり，児童宅へ電話連絡や家庭訪問を随時行ったりしたことで，児童の学校での様子を家庭に伝えることができ，目標値を達成したと考える。	A	各教室の掲示物は、どの教室も同じように掲示してあった。	安心・安全な環境づくりをするため，さらに校舎内外の環境整備に努めていく。児童には，安心・安全に学習できることに感謝して，清掃活動に取り組ませていきたい。 情報発信については，今後も定期的に便りを発行したり，HPを更新したりして，学校の情報を発信していく。
			・効率的な業務を推進し子どもと向き合う時間を確保する。	・学校行事の見直し，精選 ・週1回の定時退校日の設定 ・定時刻の教室の施錠	・常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均を45時間以下とする。	年間平均45時間以下	44時間 6分	42時間 23分	106%	4	常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間は，4月から1月までの平均が42時間23分だった。目標とする45時間以下であるので，達成度は106%であった。これは，夏季休業，冬季休業を含めた平均時間であり，課業中は授業準備，保護者対応等，勤務時間外在校時間を縮減することが難しいのが実態である。勤務時間外在校時間は年間360時間以下も求められているが，達成が難しい。	A	地域で校外学習をするときは、地域の人材を活用して少しでも業務を縮減し、子どもと向き合う時間を確保してほしい。	今年度行ったストレスチェックでは，「気を張り詰めた仕事内容で集中力が要求され，疲労感がある」が「仕事内容は自分に合っていて働き甲斐を感じている」職員が多いことが分かった。「子どもが好き」「教えることが好き」という職員の気持ちに依存し，多大な業務を行っていくのではなく，適正な業務量になるよう，児童のために何が最適解か常に考えながら改善に取り組んでいく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」表示する。

達成値/目標値を百分率

■自己評価
4…目標を上回って達成　　3…目標どおりに達成
2…目標をやや下回って達成　　1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）
A…とても適切である　　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　　D…全く適切でない
（N…判定できない）

別紙様式2

2…目標をやや下回って達成　1…目標をかなり下回って達成

(N…判定できない)